

Pickup!① 訃報 “対馬の偉大な郷土史家”逝く

上県町志多留生まれで対馬の郷土史家、永留久恵先生（享年94歳）が旅立たれました。永留久恵先生は、数々の対馬の歴史に関する書籍を発刊し、平成21年に発刊された歴史書「対馬国志」は、日本自費出版文化大賞にも輝き、平成26年3月には対馬市初の名誉市民になられました。謹んでご冥福をお祈りいたします。



国境離島の未来に向けて～対馬からの提言～

Pickup!②

4月25日、対馬市交流センターで「国境離島新法制定対馬市総決起大会」が開催されました。

谷川弥一衆議院議員や金子原二郎参議院議員、中村法道長崎県知事などが参加し、総決起大会の最後には、参加者全員で「ガンバロー三唱」が行われ官民一体となって新法の早期制定に向け気運を高めました。



Pickup!③ 国境離島は重要!!

4月29日、太田昭宏国土交通大臣が、対馬視察に訪れました。中村法道長崎県知事が「離島振興対策の充実について」「公共事業予算の確保について」などの要望書を、財部能成対馬市長が「国境離島新法の早期制定について」「市道の早期完成について」「航空路及び航路に係る施策について」などの要望書を太田大臣に手渡しました。



家老屋敷でおもてなし！

観光情報館

ふれあい処・つしま

OPEN

もっと対馬を知りたい。もっと対馬を楽しみたい。
また対馬に來たいという対馬ファン拡大をめざす
「観光情報館 ふれあい処つしま」が5月16日（土）
オープンします。

テーマは「観光客をおもてなしの心で出迎える
対馬のウェルカムゲート」。江戸時代の対馬藩家老
古川家の長屋門を再現した建物には、対馬の魅力が
いっぱい！その全貌をご紹介します。



「ふれあい処つしま」を運営する

(一社)対馬観光物産協会 西事務局長にインタビュー！



(一社)対馬観光物産協会
事務局長 西 護さん

この施設の役割は？

対馬は南北に長く大きな島で、歴史や自然にも恵まれています。全体像を一ヶ所で知ることが出来る観光施設が無く「港に着いたがどう動いてよいのかわからない」という観光客の声も聞かれました。そこで、誰でも、写真や映像を通して対馬の歴史や自然に触れることができ、対馬の旅の出発点として、この場所がウエルカムゲートの役割を発揮してくれると期待しています。厳原港からは徒歩圏内ですし、路線バスも乗り入れるこの場所に、島内外、国内外の人々があつまり、賑わう様子が目に浮かびます。

建物や家具に対馬産の木材を使い、近隣の金石城櫓門や石垣、武家屋敷

の石塀との調和をはかっています。

国境の島の観光地として、韓国人、日本人それぞれへの対応は？

年間20万人の韓国人観光客を受け入れている対馬。客数は十分と言えますが、本当に満足して帰っていたために、質の高いサービスを提供することが必要です。館内には韓国語での案内の他、韓国語が話せる職員を雇用し、韓国人観光客への



年々増加する韓国人観光客

対応を充実させています。今後も寄せられるリクエストをこれからの活動に活かしていきたいですね。

逆に、国内観光客は知名度の低さから、攻めのアピールが必要です。実は、旅行会社ですら、営業に行くと「舌岐は行った事あるが、対馬の事はよくわからない」と言われることがあります。一方で、実際にいらつしやつた観光客からは「食べ物・自然・歴史とこんなに素晴らしい島だとは思わなかった」との声をいただきます。パンフレットやホームページ、姉妹施設である、福岡の「よりあい処つしま」韓国の「対馬釜山事務所」と連携して、観光物産の振興に貢献していきます。

「対馬観光ガイドの会やんこも」の活動拠点にもなり、町あるきの案内はもちろん、対馬学の講師としても活躍してほしいと願います。

対馬市民と観光客の交流を

対馬の観光物産振興のために一番重要なのは、対馬に住む我々が対馬の魅力を学び、発信することです。住民がその土地の魅力を語らなければ、誰もその土地に行きたいとは思

いませんし、特産品を買おうとは思いません。インターネットの普及により、個人の情報発信の重要性はますます高まっています。「ふれあい処つしま」は、市民が対馬について学び、観光客と交流する拠点を目指しています。島の子どもたちが「対馬はいいところだよ」と自信を持って言えるように「ふれあい処つしま」を活用してください。観光客と市民が、ともに楽しみ、憩える場所となるよう、みなさんも気軽に足を運んでください。



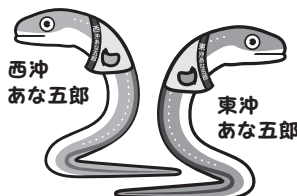
対馬藩家老古川家の長屋門が残っていた頃の大町通り

ふれあい処・つしま

対馬の自然・歴史がわかる「観光の間」

対馬の美味しいものが揃っている「特産品の間」

対馬の情報がわかる「観光案内所」



特産品の間で購入した特産品をすぐに味わったり、ゆっくりと休憩できるスペースです。今後の活用法にワクワク！



体験・憩いの間



WC

※トイレは、24時間利用できます。

体験・憩いの間 (9:00~18:00)

旅の途中で一休みできるスペース。ソバ打ちやテボづくり、革加工など職人技の紹介を行ったり、外国人観光客向けの、着物の着付け・抹茶・折り紙体験などを企画していきます。

※竹で編んだカゴ

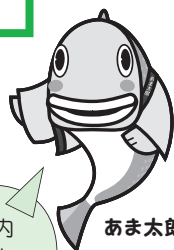
対馬の美味しいものが揃っている
特産品の間



WC

WC

多目的トイレ



多目的広場 (8:45~18:00)

コンサートやもちつきなどのイベントを開催したり、地元の人々の朝市・夕市・フリーマーケットも計画中です。

厳原バス停

長屋門に直結した、小規模な屋内イベントができるスペースです。上はガラス張りなので、雨天時にもイベントができます！

路線バス
ロータリー

南北の路線バスが
一ヶ所で乗り入れ
可能です。



特産品の間 (9:00~18:00)

対馬の特産品の見本市。対馬の海の幸・山の幸を販売、蜂蜜・地酒・果物など特産品のアピールも行います。

協会員さんのお気に入り商品で、オリジナルギフトが作れるのも魅力です。

かすまきやとんちゃんに次ぐ新たなヒット商品の誕生を！

タイシュウ
デッパ



物産担当

扇さん

ここでは、
会員のみな
さんが生産



または製造された対馬の特産品の展示や販売を行います。

島民のみなさんや観光客に知ってもらい、利用していただくとともに、島外への流通拠点としての役割を担う施設となるようにします。



観光担当
長瀬さん
対馬の歴史は奥が深く、まとめるのに苦労しました。

観光の間には、対馬の魅力が超・凝縮されています！独特の自然や歴史・伝承などを知っていただき「対馬に来て良かった」「また対馬にきたい」と思ってもらえるように、しっかりPRしていきます。



観光の間 (9:00~17:00)

対馬の魅力をコンパクトにまとめ、町あるきガイドの入口となるスペース。歴史・文化・偉人・自然・動植物などを写真や映像などで紹介しています。市民向け対馬学講座の教材としての活用も期待されています。

案内は日本語・英語・韓国語に対応。ここで対馬の全体像を知り、島旅の満足度UPを！



長屋門 対馬の玄関口の象徴

シンボルは、対馬藩家老古川家の長屋門。棧原の旧日新館門・対馬振興局前の氏江家の長屋門・金石城の櫓門・幼稚園前の高麗門…。次は何門だ？！

オリジナルスタンプもできたよ!!→



観光案内所 (8:45~17:30)

様々な観光情報を提供します。韓国語が話せる対馬出身の職員を配置しています。地元ガイド「やんこも」の手配。ふれあい処限定の対馬スタンプも作りました！



対馬観光の総合窓口です。ちょっと風変わりな人たちがいます。砲台など、意外と知られていないマニアックなガイドブックもありますよ！

対馬の自然・歴史がわかる
観光の間

長屋門 多目的広場



レンタサイクルサービス

対馬の情報がわかる
観光案内所



つしにゃんたちと記念撮影もできるよ！



【新住所】

一般社団法人 対馬観光物産協会
〒817-0021
長崎県対馬市厳原町今屋敷672-1
観光情報館 ふれあい処つしま

☎0920(52)1566 FAX 0920(52)1585
<http://www.tsushima-net.org/> ●休館日12/29~1/3

行政と地域の皆さんを結ぶパイプ役として、これから１年間
ご活躍いただく各地区の区長さんをご紹介します。（敬称略）

上日床下		小茂田浜		小茂田	阿須連	浅瀬	豆酸浜町	豆酸中町	豆酸上町	桃木	内山	内院	久和	安神	尾浦	堀田	白子	久田	久田道西里	久田道	国分	大手橋	田渕	今屋敷	中村	天道茂	日吉	宮谷	棧原	阿須	南室	小浦	小曲	地区名	本庁管内					
山掛	谷原	三吉	中	三	下	井	手	内	岸	福	桐	竹	太	阿比留	庄司	久和	平	武	河	根	竹	上	松	岩	春	山	大	原	松	一	内	柴	原	白		有	梅	氏		
秀照		登志	廣	善	敏	勝	達	秀	恵	幸	和	政	民	幹	忠	義	勝	憲	三	幸	敬				賢太			秀	明	宗	孝	初	志	一	素	名				
豊年		道郎	計久	弘	正	也	和	太	洋	雄	央	生	雄	光	弘	俊	昇	治	郎	男	行	正	章	博	郎	信	昭	博	雄	文	見	芳	實	直						
久平		大船	中	浦	島	竹	黒	昼	尾	今	加	吹	箕	洲	根	西	高	大	樽	瀬	瀬	宮	日	住	本	日	中	上	上	焼	(美津島行政サービスセンター管内)			久	久	上	椎	椎		
久保	瀬	越本	浜	崎	山	敷	瀬	ヶ	崎	里	志	崎	形	藻	緒	浜	浜	ヶ	第2	第1	の下	の出	吉	町	向	の	第2	第1	松	根				根	根	根	根	根	根	
小宮		平	山	関	長	黒	吉	栗	國	浦	井	阿	佐	俵	西	齊	犬	瀬	岡	森	山	梯	阿	山	神	川	阿	相	俵	中				小	内	熊	西	大		
島嶋		松	田		岩	野	屋	分	瀬	義	初	秀	格	安	劍	正	寛	文	良	忠	啓	慶	邦	正	正	二	三	榮				島	山	本	山	塚	宮			
裕仁		雅	政	釋	英	日	正	若	勇	義	初	秀	格	安	劍	正	寛	文	良	忠	啓	慶	邦	正	正	二	三	榮				充	博	與	彩	英	英			
一知		弘	臣	生	壽	夫	幸	雄	児	恵	廣	美	豊	俊	彦	清	司	仁	士	郁	子	男	治	昭	吉	明	信	象				敬	美	美	香	樹	久			
大志		唐	加	水	東	貝	佐	卯	位	千	鍵	見	塩	横	和	糸	貝	嵯	佐	仁	細	長	新	元	鴨	赤	濃	賀	芦	小	中対馬振興部管内			大	玉	犬	緒	女		
大網	多	廻	洲	崎	藤	口	保	麦	端	尋	藻	川	浜	板	瀬	阿	川	田	松	阿	中	阿	齊	末	川	幾	小	井	佐	井				佐	田	田	調	吠	方	島
中作		堀	阿	松	島	赤	阿	長	吉	大	平	杉	河	吉	横	佐	原	阿	川	田	松	阿	中	阿	齊	末	川	幾	小	井	佐	井	佐	田	田	調	吠	方	島	
嶋元			留	原	本	木	留	郷	村	島	間	城	内	村	瀬	伯	田	留	崎	中	井	留	島	留	藤	永	口	度	田	手	々	田	田	調	吠	方	島			
武隆		義	富	大	真	正	茂	泰	三	淳	益	和	福	秀	與	芳	節	英	秀	雅	敏	輝							正	正				龍	和	一	一	広		
美幸		喜	生	成	二	男	夫	俊	涉	次	俊	壽	樹	郎	理	寛	雄	嗣	男	美	涉	弘	男	良	勝	隆	洋	豊	彦	定				美	實	三	男	通		
舟大		玖	浜	唐	津	富	網	比	古	西	鰐			大	河	上対馬振興部管内			女	久	鹿	志	志																	
舟志	大増	玖	須	須	和	浦	代	勝	里	泊	豊	浦	浦	内	市				小	須	岡	畑	武	糸	中	日	渡	島	居	田	田	瀨	村	村	松	松	三	根	上	小
島比		勝	須	藤	瀬	末	阿比留	網代	江	築	田	梅	富	扇	篠	大				市	川	野	島	瀨	村	高	邊	居	田	田	瀨	村	村	松	松	三	根	上	小	
邦智			哲	政	秀	康	保	幸	克	和	彦	良	見	己	治	仲				高	俊	清	計	裕	茂	正	安	健	晴	博	健	智	文	政	三	根	上	小		
嗣之		格	雄	吉	幸	成	明治	哉	彦	良	見	己	治	仲				義	輝	幸	政	市	嗣	雄	喜	実	二	樹	俊	一	哉	靖	幸	(峰行政サービスセンター管内)			田	銘	綱	小
田志		伊	越	御	犬	越	飼	榎	瀬	瀬	中	友	井	仁	恵	深	西	大	三	太	下	上	本	土	浜	松	上対馬振興部 (上県行政サービスセンター管内)			小	一	芦	茂	五						
田多	留奈	高	園	浦	坂	所	滝	二	一	山	湊	谷	口	ノ	古	屋	地	軒	鼓	町	町	町	井	倉	阿					鹿	重	見	琴	根	緒					
乙米		惣	本	原	末	浦	春	川	山	阿	中	小	平	豊	大	島	春	小	平	岩	原	竹	早	佐	井	倉	阿				扇	神	原	井	岩	橘				
成田		島	多	田	永	田	本	田	留	山	宮	山	平	豊	大	島	春	小	平	岩	原	竹	早	佐	井	倉	阿				田	田	元	武	照					
繁代		津	長	福	廣	成	醇	次	保	静	忠	善	脩	哲	真	護	淳	孝	真	稔	憲	憲	守	透	市				次	満	嘉	直	輝	照						
修利		生	仁	則	伝	海	彦	仁	久	則	男	博	久	二	享	吾	優	祐	一	久	紀	恵	正	次	守	透	市				男	男	雅	德	信	吉				